

八雲住区住民会議 設立30周年記念事業
小学生作文コンクール

「わたしたちのまち・八雲の未来」
～ 入選作品集 ～

平成28年3月

八雲住区住民会議
設立30周年記念事業実行委員会

目 次

○ 作文コンクールについて	2 頁
・コンクールの概要	
・審査方法および結果	
○ 入選作品	
◇入賞（2人）	3 頁
「わたしたちのまち」	1年 山ぐち あん
「あいさつがあふれるこのまち八雲のまち」	4年 古川 愛梨
◇佳作（13人）	
1年	4 頁
「にじのまち」	しのつか れいな
「べんりでゆめのあるしょうてんがい」	うえむら さくや
2年生	5 頁
「未来の八雲」	木下 瀬菜
「八雲の未来」	もち月 まお
「スマイル」	のと すみほ
3年生	6 頁
「なかよし」	江中 杏衣
「元気にあいさつできる町」	鈴木 小春
「八雲の町」	青田 琉乃介
「八雲のたくさんのよいところ」	渥美 玲
4年生	8 頁
「すてきな八雲」	原田 りこ
「十年後の八雲の町」	柄崎 晴美
5年生	9 頁
「わたしたちのふるさと八雲の未来」	飯塚 希
「住みやすい八雲」	林 真瑚
<編集後記>	11 頁

作文コンクールについて

1 コンクールの概要

八雲住区住民会議は、昭和60年12月7日の設立総会から30年周年を迎えることから、平成26年10月に特別委員会「設立30周年記念事業実行委員会」を立ち上げました。実行委員会では、記念事業の目的を、「地域の様々な団体と協力してより多くの方が参加できるような記念事業を企画・実施し、住区住民会議の歩みや取り組みを多くの方に伝えるとともに、これからの住区活動についても考えていく」としています。

今回の小学生作文コンクール「わたしたちのまち・八雲の未来」は、記念事業の一環として、これからの八雲地域を子どもの視点で見つめ、住みやすいまちの手がかりになればと考えて、企画したものです。そして、平成27年12月に八雲小学校の協力を得て、小学生を対象に作文を募集し、合計224人の小学生から応募がありました。

○募集テーマ「わたしたちのまち・八雲の未来」

八雲地域は緑豊かな住宅地で、また、都立大学移転後も区民キャンパスを中心とした文化やスポーツの盛んな伝統ある地域です。一方、少子高齢化も進み、地元の商店街もかつてのような面影はなく、駅前ではコンビニや飲食店が増えてきています。そこで、移り変わる八雲地域の10年後を小学生の視点から、「どんなふうが変わっていくのか」「こんなまちになったらいいな」など、夢や願いを作文にしてください。

○字数は400字以内（題、学年・組、氏名は含みません）。締切は1月17日まで

2 審査方法および結果

実行委員会では審査会を設置し、第1回審査会で審査方法・審査基準等を確認のうえ、2月15日までに第1次審査として各学年から6点合計30作品を選考しました。第2次審査は、2月22日に行われ、第一次審査を通過した30作品を対象に厳正審査の結果、次の通り入賞2作品、佳作13作品が選ばれました。15人の入選者にはそれぞれ賞状を贈呈しました。

【入賞】	1年	山ぐち あん	わたしたちのまち
	4年	古川 愛梨	あいさつがあふれるこのまち八雲のまち
【佳作】	1年	しのつか れいな	にじのまち
		うえむら さくや	べんりでゆめのあるしょうてんがい
	2年	木下 瀬菜	未来の八雲
		もち月 まお	八雲の未来
		のと すみほ	スマイル
	3年	江中 杏衣	なかよし
		鈴木 小春	元気にあいさつできる町
		青田 琉乃介	八雲の町
	4年	渥美 玲	八雲のたくさんのよいところ
		原田 りこ	すてきな八雲
		柄崎 晴美	十年後の八雲の町
	5年	飯塚 希	わたしたちのふるさと八雲の未来
		林 真瑚	住みやすい八雲

入賞 「わたしたちのまち」 一年 山ぐち あん

わたしがかんがえるみらいのやくものまちは、ようちえん、ほいくえんと小学校とろうじんホームがいつしよにかよえる学校があるとたのしいとおもいました。おじいやんおばあちゃんは小さい子どもを見るとニコニコしてうれしそうにはなしてくれず。ほいくえんの小さい子たちもげん気いっばいでいろいろおしえてあげたいあそびがあります。わたしには、とってもかわいいおとうとがいて、もつといっしよにめんどうも見てあげたいです。

おじいちゃんともお手玉やおはじき、カルタあそびをいつしよにおしえてもらいながらあそぶことができます。みんなでおはなをそだてて、さいたおはなを「きれいだね。」っていえるたのしい学校、まちになったらいいなとおもいます。

入賞 「あいさつがあふれるこのまち 八雲のまち

わたしたちのまち」 四年 古川 愛梨

私は、「八雲」といわれて、すぐに思いうかぶのは「あいさつ」です。「あいさつ運動」には、毎日たくさんの方が来て、学校の友達から保ご者の人たち、ときには学校の先生たちも参加しています。私も参加しましたが日がたつにつれ、たくさんのおはようございます」が聞こえてきてとてもうれしかったです。これからも参加していきたいです。「あいさつ標語」もあり、代表の人の標語は、ポスターになり、けいじ板などにかかれていますのでそれもあいさつに親しみやすくなります。

十年後の「八雲」。私は、元気な声のあいさつが「八雲」のどこからも聞こえてくるまちになっていたらいいなと思います。「あいさつ運動」でたくさんの人にあいさつをしてもらったり、「あいさつ標語」でみなさんに親しみをもってもらったりして、あいさつの輪をこの「八雲」のまち全体に広げたいです。

佳作 「じじのまち」 一年 しづか れいな

わたしは、やくものみらいをかんがえたとき、こんなま
ちになってもらいたいとおもいました。キラキラしたほう
せきのまち、ごみがおちていないきれいなまち、空がきれ
いにみえるまち、きれいなけしきのまちを、おもいうかべ
ました。

そして、わたしたちこどもたちが、なわとびとかげんき
にあそべるまちになってほしいです。いつものように、小
学校で、こくご、さんすう、ずこうやおんがくが、べんき
ようできる、ランドセルにあうまちになってほしいです。
まちには、おいしいやさいやくだものやさん、かわいい
ようふくのおみせ、おいしいレストランやおはなやがあり、
にぎやかです。

さいごに、すんでいる人みんなが、やさしさいっぱい、
いつもニコニコできたらいいなおもいます。そして、わ
たしの大ききなじがきれいなまちになってほしいです。
これが、わたしのゆめのまち八くもです。

佳作 「べんりでゆめのあるしょうてんがい」

一年 つねむら ちくち

八くもしょうてんがいは、おみせがすくないとおもいま
す。おにくやさんはあるけど、さかなやさんや、やおやさ
んはないし、おとしよりがかいものをできるような、よう
ふくやさんも、くつやさんもありません。

しょうてんがいに、そういうおみせがふえたら、とおく
にかいにいかなくていいので、おとしよりはべんりだとお
もいます。

ぼくは、おもちゃランドがあつたらいいなおもいます。
ドラえもののどこでもドアのような、いり口があつて、い
ろんなおもちゃであそべます。大きなひろばもあつて、雨
の日はやきゅうやサッカーができます。

十ねんごの八くものまちが、そんなふうになつたら、う
れしいです。

佳作 「未来の八雲」

二年 木下 瀬菜

わたしは、十年後の八雲がなってほしいけんは三つあります。

一つ目はやさしさとしんせつです。八雲にすんでいる人たちがやさしさをもち、お年よりの人や耳がきこえない人、目がみえない人にしんせつにする八雲になってほしいです。

二つ目は、きょうりよくです。八雲の人たちがかじやしんがきたときにきょうりよくして、みんなぶじにじしんやかじからまぬがれるような町になってほしいです。

三つ目はおだやかです。みんなおだやかにくらし、ふしんしややわるい人がいなくて、きてもきょうりよくしておい出す町にしたいです。これでおわります。

佳作 「八雲の未来」

二年 もち月 まお

わたしの八雲の未来は、きんじよの人やしんせきや友だちなどがたすけあいきょうりよくしながら生かつできるといいなどおもっています。いつまでも一人ではさみしいのでいろいろな人とはなしたりあそんだりすると、八雲はいい町になるでしょう。

そういうことができない人やはずかしがる人がいても、友だちになりたかったら、自分から「友だちになろうよ。」と言ってあげるとよろこんでもらえて、さらに「うんいいよ。」と言ってもらえるとおもいます。そしたら友だちがいつぱいできて、いい町になるとおもいます。

こんな未来ができればとつてもいいなとおもいます。わたしもきょうりよくしたいとおもっています。

佳作 「スマイル」

二年 のと すみほ

十年後のやくもはきつと、いじめをなくすために、いじめられた子はでんわをかけて、おせわロボットがなかなかおりのしかたをおしえてくれる、いじめセンターがあると思います。

わたしは、スマイルパークというこどものためのあそぶところがほしいです。中は、おせわロボットがバトミントンやサッカー、ベンきょうなど、おせわロボットがおしえてくれるところです。

ベンきょうがおわったら、あそびにいきます。おはなばたけやロボットむしランドやこどもがすきなあそびがあります。ほかには、まちの中にしごとのたいけんできるばしよや、もちろんおしろやゆうえんちだつてあつて、どうぶつペットランドがあります。

そして、いじめをなくすために、スマイルパークのまんなかに、ロボットかみがいて、なかなおりをさせてくれる、たのしいスマイルパークが、わたしはほしいです。

佳作 「なかよし」

三年 江中 杏衣

わたしの住んでいる八雲のまちは、住区センターがあります。住区センターとは、いろいろな人と人がふれあう場所です。なかよくなれます。

十年後の八雲を考えると、もっと人と人がふれあう場所をたくさん作つて、みんながなかよく気もちよく元気になれると思います。みんなをそのことでえがおにしたいです。

そしていい人がふえて、みんながやさしい気もちになります。どろぼうなどいやな気もちの人を一人もいなくして、この八雲の町をだれともなかよしい町でいたいのです。きつと十年後の八雲の町は、みんながなかよしになつて、住区センターや、人と人のふれあう場所がふえるとおいます。

佳作 「元氣にあいさつできるまち」 三年 鈴木 小春

わたしの住んでいる町八雲は、あいさつする人としなない人がいます。

十年後の八雲は、どうなっているだろうと考えると、みんなが元氣にあいさつできる町に変わっていたらいいなと思います。そしたらみんなが気持ちよくすごせるからです。

八雲に住んでいる人全員で意きして今からどんどんよくなっていけたらいいと思います。「おはよう。」と言われてたら「おはよう。」とかえして気持ちよくあいさつすれば心が、すうつと軽くなって、木や花も目ざめるように、大きな声で言える町になっていたらいいなと思います。あいさつする時も目を見てあいさつできるといいと思います。きっと十年後の八雲は、元氣にあいさつできる町になっていると思います。これからもあいさつをつづけて、気持ちよくすごせると思います。

佳作 「八雲の町」 三年 青田 琉乃介

ぼくは、八雲の町をよいと思います。なぜかというところのみ川緑道やふすま町公園や目黒区民キャンパスなどの自ぜんがたくさんあるからです。子どもが遊ぶ場所がたくさんあります。コロッケのお肉屋さんやマイバスケットやいなげやや、色々な食べ物売っているお店、自てん車屋さんやゆうびん局があったり、レストランもたくさんあるので、とてもべんりな町です。

そんな町が十年後になっても、このまま公園や自ぜんがたくさんこのままでほしいと思います。ずっと住みやすくなっていってほしいと思います。そのためには、町でやっている行事にいっぱいさんかしたり、ボランティア活動に参加して町のために仕事をしたりしたいと思います。

東京オリンピックがあるので世界の人たちにせんでんして八雲の町にきてもらいたいです。さいごに、ぼくは八雲小が大好きなので、子どもが多くなっしてほしいです。

佳作 「八雲のたくさんのよいところ」 三年 渥美 玲

わたしが思う八雲のよいところは、しぜんがたくさんあるところと、長いれきしがある物や場所があるところです。

十年後には、木や花がたくさんあって、今よりもっと植物を大切にする人がふえてほしいなあと思いました。それに、虫や鳥がくらしやすいかんきょうになったらいいなあと思いました。それに、今でもれきしがある物はずつこのこつていてほしいです。さらにれきしがある神社や八雲小学校をすきになつてもらいたいなあと思いました。

ほかにも、今のように歩道におち葉やごみがなくてきれいな町のままできてほしいし、八雲にはじめて来た人でも楽しめるような八雲になつてほしいなあと思いました。

十年後にこのようになるために、自分から進んで、歩道のそうじをしたり、いろんな人にあいさつをしたり、やさしくするようにして八雲がよりよい町になっていたらいいなあと思います。

佳作 「すてきな八雲」 四年 原田 リコ

私は、八雲が明るくて楽しい町になつてほしいです。

明るいというのは私が思ったことですが、街灯がもう少し明るくなったり夜でも安心して道を通れるようになってほしいです。商店街の方は明るいけれど、ひかわ神社の方あまり明るくないなと思いました。だからもう少し明かりをふやしてほしいです。

楽しくなつてほしいというのは、たまに行事があるのでなく、たくさんみんなが参加できる行事がふえてほしいです。行事があるとみんなで協力したり仲良くできたり、みんながいっしょにかかわって仲良くできるからです。他にも町の人がみんな楽しんでるものがあるといいと思いました。

だから私は、八雲が明るくてみんなで楽しんだり仲良くしたり、みんなが安心して道を通ったり、みんながいいなと思う楽しい町にしてほしいと思いました。

佳作 「十年後の八雲の町」

四年 柄崎 晴美

わたしが想像している八雲の町は、第一に不審者がへることです。なぜなら安全な町でいてほしいからです。未来の子供達にも、安全で、いごこ地のよい町だと思っしてほしいです。

もう一つは、知らない人でも助けってくれる人が多い町でいてほしいということです。なぜなら、そういう人が多ければ、助けた人も、助けられた人も、気分が良くて、うれしいし、他の町から来た人たちや、外国から来た人にお手本にしたい人がたくさんいる、良い町だと思ってくれるかもしれないからです。

わたしは、今の町に住んでいて、とても住み心地がよいし、やさしくしてくれる人もいて、自然など、緑がきれいなところに、住んでいるので楽しいです。

これからも、今住んでいる人や、未来で八雲に住む人や、かんきょうのために、八雲の町を、もつときれいに、してたいです。

佳作 「わたしたちのふるさと八雲の未来」

五年 飯塚 希

わたしは、八雲の町に自然がたくさんのことっていたいと思います。今の八雲には緑道があります。毎年三、四月ごろになるときれいな桜がさきます。お花見をしに集まってくる。わたしは、にぎやかで楽しいのが好きなので近くに人がたくさんいるとなぜだかうれしくなります。

でも便利なものもあってほしいです。最近都立大学駅がきれいになってお店もできて便利になりました。近くにお店があると手や足が不自由なお年よりの方でも楽に買い物ができます。お年よりが外出すると子ども達とふれあう機会も多くなり、笑顔が増えていいと思います。

このこのように、私は、自然がたくさんあり、便利な笑顔のあふれるまちにしたいです。十年後も、今と変わらない緑道やたくさんさんの自然、たくさんさんの笑顔が、のことってほしいです。

私は八雲小の歴史を感じられる、昔ながらの街なみが残る街がいいと思いました。もちろんこの街に住むしよ害者や高齢者などにもくらしやすい街になってほしいです。

例えば八雲商店街に残っている古いお店を大切にして使う、八雲小学校にある資料室の物を公開するなどして、「歴史が感じられるな。」と思ってもらいたいです。なぜそう思うかと言うと、昔の歴史などを見ていたりするととても心が落ちつくと思っただからです。

しょうがい者や高齢者が住みやすくするには、バリアフリーなどの設備をじゅうじつさせる事や困っていたら助けるなどをしたらいいと思いました。商店街で私はあまりバリアフリーを見たことがないのでふやした方がいいなと思います。

このような事を目標にして街作りをしていきたいと私は思いました。これからも八雲を大切にすることをがんばりたいです。

～～～～～ 編 集 後 記 ～～～～～

- ・八雲小学校の協力を得て実施した作文コンクールには、224人の子どもたちが、それぞれの思いを寄せてくれた。
- ・どの作文にも、八雲という地域への深い愛着と思いが綴られており、地域の中での家庭の暮らし、学校生活の様子がうかがえた。
- ・商店街の様子や挨拶運動を始め、いじめ、障がい者や高齢者、交通問題、環境問題を取り上げる子どもたちもたくさんいた。
- ・10年後は、子どもたちが大学生になっている頃だ。子どもたちの描いた夢や願いが、少しでも叶えられたらどんなに素晴らしいだろう。
- ・住区住民会議だけでなく、より多くの地域の方々に目を通してもらいたいと思い、入賞・佳作の作文を小冊子にまとめることにした。今の子どもたちを知る意味でも、大勢の方々に手にとってもらえることを願っている。

発行年月日 平成28年3月18日

発行元 八雲住区住民会議・設立30周年記念事業実行委員会
〒152-0023 東京都目黒区八雲1-10-5 八雲住区センター
連絡先 03-3718-0851

<作文審査委員>

・審査委員長

木元巖（八雲住区住民会議 前会長）

・審査委員

—住民会議—

北澤尚文（会長）、坂川玲子（生活環境部会長）、高橋紀美子（広報部会長）

—実行委員会—

宮田雅（委員長・住区青少年育成部会長）、林隆志（住区副会長）

小沼洋子（住区事務局長）、品田政宏（住区施設運営部会長）、小林雅子、馬渡令子
澤田明子・矢野昭太郎（庶務）、寺光直美・細川由美（会計）